

渦巻く「安保NO」

会社員ら「強行採決許されない」

与党が今週中にも採決を目指す安全保障関連法案に反対する市民による抗議行動が14日夜、東京・永田町の国会議事堂前とその周辺を埋めた。主催者発表によると、参加者は4万5千人。車道に人々があふれ、警察側が設けた鉄柵が倒れるなど現場は混乱した。参加者は「廃案!」「強行採決反対」と叫び続けた。

▼1面参照

国会前で抗議行動



国会前の車道を埋め尽くす抗議行動の参加者たち=14日午後7時56分、国会前、関田航撮影

ウオッチ 安保国会

「廃案! 廃案!」。14日夜、国会議事堂前には抗議行動の開始前から参加者が詰めかけ、歩道は身動きが取れないほどの混雑に。議事堂に向かう幅約50メートルの車道の両側に機動隊車両が並ぶなかで、午後7時すぎには参加者が車道にあふれ出し、車両の間を埋めつくした。あふれ出す人々を警察側が人垣を作って制止し、「通せ」「やめる」などの怒号が飛び交った。主催したのは、平和運動を続けてきた市民らでつくる「戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会」。大学生らの「S.E.A.L.D.s」、大学教授や研究者らの「学者の会」、子育て世代の「ママの会」なども協力。「12万人(主催者発表)」が参加した8月

30日のデモを再現して、採決を阻止しよう」と世代を超えて集まった。ノーベル賞作家の大江健三郎さんもスピーチに立った。

あらゆる世代や職業の人たちが集まるなかで、「一番声を上げにくい」と言われてきた働き盛りの会社員たちの姿も目立った。食品会社に勤める埼玉県川口市の男性(42)は仕事を急いで終え、午後8時前に駆けつけた。「たぐさんの法律に神経をとがらせ、小さなミスが致命傷になる。そんなメーカーのサラリーマンとしては、憲法学者に連帯と指摘されても平気な顔の政府にはあきれ。強行採決が許されるのなら、法治国家とは思えない」と怒った。都内でエンジニアとして勤める男性会社員(26)は会社帰りに、趣味の音楽の友達という化粧品販売店の女性(29)と駆けつけた。7月に続き2回目。会社では安保を話題にすることはない。「デモに来ている人には色々な考えがあり、自分の考えも出せる」。女性も「声を直接上げることが特別ではないと実感しています」。

9/15 朝日